

事例 12 教員研修(小・中学校 4)

【多摩森林科学園年報 39 号:P40-41】

教員研修

「森林教育のための教員研修」(第4回)開催報告

2016 年 7 月実施 森林教育

多摩森林科学園における地域連携、普及・広報活動の一貫として、学校教育での森林教育活動を支援し、未来を担う子ども達への森林教育活動に貢献することを目的に、2回の学校教員向けの研修会を実施しました。

1. 教員研修 I

東京都産業労働局森林課と連携した教員研修 I は、今回で4回目となり、新たに東京都教育委員会の認定研修となりました。多様な分野の先生 16 名(小学校 14 名, 中学校2名)が集まり、7月 25 日(月)に実施しました(写真1)。参加者の担当は、図工・技術(3名)、特別支援教育(3名)や、小学校の中・高学年(3名)や低学年(3名)となっており、教科などをみると国語、外国語、算数、司書など森林とのつながりが少ない分野からの参加もあり、広がりがみられました。

研修内容は、東京都が推進している「木育」を取り入れた内容としました(表-1)。研修①では、木とその木材の利用を紹介した樹木園のフィールド展示「森のポスト」を使った樹木観察(講師:大石康彦)で、木の特徴を活かした身近な木の利用を紹介し(写真2)、研修②では、木材の消費量の約4割を占める紙と木とのつながりを考えるプログラムとして、本に着目し、本の起源となっている木簡づくりを行いました。午前中に観察した 10 種類の樹木の印象などを、細い木簡(10 本)に筆で書き、紐でつないで巻けるようにしました(写真3)。また概要説明では、学校教育の中での森林や木との関わりと、当研究所の研究成果である森林教育について紹介しました。

アンケートの結果、研修会全体の感想(5段階評価)は、平均評価が 4.75 と非常に高く、大変好評でした。また、参加者全員が研修の成果を学校教育に活用する予定と回答されました。活用方法別にみると(複数回答)、「授業で活用する」16 名(生活科 4, 社会 4, 図工 4, 理科 2, 総合的な学習の時間 2, 国語(書写)1, 算数 1, 学級活動 1, 未定 2)、「ホームルーム等で生徒に話す」7名、「森林体験を実施する」4名(遠足, 校外学習, 宿泊行事, 移動教室の林業体験)、他にも遠足での話題、クラス思いづくりなどが挙げられました。

表-1 「森林教育のための教員研修」プログラム(7月 25 日)

時間	内 容
10:00	開講式, 自己紹介
10:45	講義 概要説明「学校教育と森林教育」(講師:井上真理子)
11:00	研修① 森と木を考える:「森のポスト」を利用した樹木観察 (講師:大石康彦)
13:10	研修② 木と本をめぐる旅:木簡づくり (講師:孝本真由子)
15:10	閉講式, アンケート

事例 12

【多摩森林科学園年報 39 号:P40-41】

印象に残った内容(記述)としては、森のポストでの樹木観察・解説が8名(1本1本の木の特徴、木の使われ方、さわれる展示など)、木簡づくりが7名、木と本のつながりや歴史の話が3名と、野外の樹木観察と木の利用をつなげた研修内容が評価されました。他にも、「森林と暮らしや生活とのつながり」、「森林・木が教材として使える」、「観察した木のことを木簡で表現したこと」、「森林教育の大切さ」、「講義以外の体験などを含む研修形式」、「多摩森林科学園(東京都内にある子ども達が経験できる大自然)」(以上各 1 名)が挙げられました(回答数は重複)。また、参加の形式を聞いた結果、研修が教育委員会の認定研修となったことで、職務としての参加が5割(出張 5 名, 研修 3 名)、休暇などでの参加が5割(職免 2 名, 休暇 6 名)となり、昨年よりも業務として研修に参加できる人がやや増えました。

2. 教員研修Ⅱ

教員研修Ⅱは、昨年に引き続き、学校林での教育活動を実施している神奈川県相模原市立広陵小学校からの依頼により、7月28日(木)に教員研修Ⅰに準じた内容で実施しました(参加者13名)(写真4)。

今年の研修では、森林教育を国語や歴史へつなぐ展開を図れたかと思います。今後も研究と教員現場をつなげる森林教育研究を進めていきたいと思います。



教員研修Ⅰの様子(7月25日)



「森のポスト」を活用した樹木観察



木簡づくり



教員研修Ⅱの様子(7月28日)

(井上真理子・大石康彦)